

農業



令和2年10月号
会誌 No. 1669

目次

巻頭言

予測困難な時代の最善解……………手島 秀樹 3

論 壇

地球救外型農業へ……………藤原 辰史 4

農業懇話会

「令和元年度食料・農業・農村白書」について……………伊佐 寛 6
質疑応答……………17

農事功績者座談会

有機野菜と薬用作物栽培の複合経営で地域農業を牽引……………山口 武 22
現地指導者のコメント……………安川 人央 30
意見交換……………31

研究の最前線

長野県における果樹の育種と知的財産権の活用……………小松 宏光 38

農業・農村の現場から

特別栽培りんごの確立とその強みを活かした輸出の取組……………横澤 勤 44
—国内外でのプライスリーダー獲得に向けて—

世界の農業は今

オランダ駐在員が見たオランダ農業の伝統と挑戦……………後藤 一寿 52

私の経営と志

伝統ある茶産地を継承する……………竹田 知裕 59
—お茶で笑顔あふれる癒しの空間を—

統計情報

令和元年農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率…………… 58

農政情報

大日本農会だより…………… 62

編集部から…………… 51

ミニ情報

令和元年産水稻の品種別作付動向について…………… 21

野生鳥獣資源利用実態調査（令和元年度）について…………… 37

表紙写真説明

黒毛和牛「あしきた牛」の飼育（熊本県葦北郡芦北町）

熊本県の南部に位置する人口約18,000人の芦北町。標高902メートルの大関山を水源とする綺麗な水が西の不知火海へと注がれており、「うたせ船」による漁業や、温暖な気候を活かした柑橘の栽培が盛んです。

そのような豊かな自然環境の中で、黒毛和牛あしきた牛は「愛が育てるあしきた牛」の合言葉のもと、こだわりの飼料を与えられ育ちます。近年は子牛価格の高騰により繁殖・肥育の一貫経営に取り組む生産者が増えており、「あしきた産まれ、あしきた育ちのあしきた牛」の生産に力を入れています。その肥育技術は高く、九州管内系統和牛枝肉共励会において過去に多くのグランドチャンピオンを受賞。A5等級生産率の高さと、霜降りのおしきた牛の美しさが特徴です。

あしきた牛は同町のふるさと納税返礼品にもなっており、町を代表する特産品の一つです。

（写真及び文：あしきた農業協同組合 企画管理部経理電算課 山内 洋輔）